

令和5年度 学校経営報告書

学校番号	23	学 校 名	静岡県立掛川特別支援学校	校 長 名	赤澤 智子
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標は**ゴシック体**で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	(ア) 安全・安心 児童生徒が安全に安心して生活することができ、活動しやすい教育環境を整備する。	・管理責任者による安全点検の実施と危険個所の整備 100%	・100% 毎月点検を実施	A	・防災上の観点からも点検項目を再検討する。
		・「整理整頓・清掃が常に行き届いている学校」と答える教職員 100%。	・89% 計画的にスクールクリーン、職員作業を実施		・ごみの捨て方や段ボールの処理方法で徹底されていない部分があった。
		・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生0件。 ・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%	・児童生徒の重大事故0件 ・100% ヒヤリハット、事故報告事例の情報共有		・ヒヤリハットの報告の共有を徹底する。 ・より実地的な緊急時対応訓練を実施する。
	(イ) 危機管理体制の整備と改善 事故や災害等に対する適切・迅速な対応を考え危機管理意識の向上を図る。(自分の命は自分で守る教育)	・地域との合同訓練を通して福祉避難所運営や避難体制の確立 100%	・99% 掛川市と合同の避難所設営運営訓練実施	A	・実際に設営することにより、役割や動きなど避難所運営のイメージを持つことができた。 ・現実的な受け入れ態勢について市と連携を深めていく必要がある。
		・マニュアルを教職員が理解し、「児童生徒が有事の際の動きが分かり行動できた」と答える教職員 100%	・98% 災害、緊急捜索、不審者対応等の訓練を実施		・訓練前にマニュアルの確認を徹底。訓練後すぐに反省を行い、マニュアルの見直し、改善に反映できた。 ・防災教育の充実
		・不祥事根絶。情報機器管理・紛失0件。個人情報紛失0件。交通加害事故0件。不適正会計処理0件。	・不祥事0件		・ルールを決めて複数の目で複数回確認することが有効だった。
	(ウ) 人権教育、道徳教育の充実 教職員、児童生徒の人権意識を向上し、他者も自分も大切にすることを育む。	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いできた」と答える教職員の評価 100%	・96% ・月に一度人権のアンケートの結果を周知 ・人権研修で、グループワークを実施	A	・人権研修では、多様な価値観があることを再認識することができた。 ・今後も高い人権意識を継続していく。
		・「アンケート後、丁寧な対応ができた」と答える教職員 100%	・98% 「生活や学習に関するアンケート」を2回実施。アンケートの結果を学部学年で情報共有		・必要な児童生徒には担任が聞き取りを行い、学年主任・部主事と情報共有し、迅速に対応できた。
		・「児童生徒が、あいさつやありがとうが自分から言えた」と答える教職員 100%	・92% 道徳教育(道徳をテーマにした公開授業)各学年1回以上実施		・公開授業を実施する際は、各学部で参観する学年を指定し、指導内容を共有していく。
	(エ) 業務改善と明るい職場づくり 心にゆとりがあり、教育公務員としての自	・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90%	・86% 夢の実現委員会実施3回 授業準備時間の確保	A	・連続して月当たりの時間外勤務45時間以上の職員が減少した。 ・年間指導計画の見直し(単元配列や行事の精選の検討)に取り組むことができた。

	覚と仲間を大切にする姿勢をもった教職員	・「自分の役割を自覚し、仲間と協働することができた」と答える教職員 100%	・91% 業務内容の明確化		・教職員一人一人の業務量を考慮し、教材研究や事務処理の時間を調整できた。 心理的な安全性を確保し、互いを思いやる雰囲気醸成する必要がある。
イ	(ア) 保護者と教職員が連携・協力して児童生徒の成長を支え、夢の実現を目指す。	・「すまいるファイルを保護者や関係機関と共有し、面談や進路に活かせた」と答える教職員 100%	・91% すまいるファイルの意義や校内外の活用方法を周知	A	・インデックスやクリアポケットを活用し、すまいるファイルの整理ができ、保護者にとっても見やすくなり、活用しやすくなった。
		・「日々の児童生徒の評価を記録し、個別の指導計画に反映できた」と答える教職員 100%	・98% 自立活動「流れ図」による、個別の指導計画検討会を実施		・個別の指導計画の目標や支援を考える際、自立活動の流れ図の視点を持ち、6区分 27 項目を意識することができるようになった。
		・「助言者や授業アドバイザー等からの助言を受け授業改善できた」と答える教職員 100%	・96% 一人一授業研の実施、公開授業研究会開催		・授業の構想段階から授業アドバイザーが助言を行い、継続的な授業改善につなげることができた。 ・助言者の助言を整理し、提示することで、具体的な理解を促すことができた。
	(イ) 12 年間を見通したつながりある年間指導計画の作成と授業づくりを実施する。	・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100%	・96% 一人一授業研の実施		・主体的・対話的な学びの姿を具体的に共通理解し、合わせてそれらを引き出す手立てを考えることができた。 ・PowerPoint や電子黒板など教師による活用は進んだ。児童生徒の活用を推進していく。
		・「授業で I C T 機器を活用した」と答える教職員 100%	・96% 機器活用研修、授業実践の紹介		
		・「12 年間の系統性、や学習指導要領等の内容を見直した年間指導計画が作成できたと答えた」教職員 100%	・95% カリキュラムマネジメント委員会実施（3 回）		・実技教科（保健体育、美術、音楽）について、カリキュラムマネジメントを実施、12 年間の系統性を意識した年間指導指導計画の試案を作成した。
		・『掛特版キャリアプランニング・マトリックス』や『保健教育に関する 12 年間の押さえ』を活用し、授業実践した」という学部 100%	・88% 学習会実施、ゲストティーチャーによる授業実践		・単元計画を立てる際、キャリアプランニングマトリックスの活用をするようになってきた。 ・養護教諭との連携授業の継続する（保健教育等）
	(ウ) 専門性学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通して、実践力と専門性のレベルアップを図る。	・「児童生徒が読書に親しんだり芸術を楽しんだりすることができた」と答える教職員 100%	・88% 読み聞かせ、移動図書館の開催		・外部団体や高等部生徒による読み聞かせ会では、児童生徒が新しい本と出合うきっかけとなった。 ・移動図書館（月 1 回）は、多くの児童生徒の利用があり、地域とつながることができた。

ウ	(ア) センター 的機能 社会に開かれ た教育課程の 実現を目指し た地域・学校・ 家庭の協働強 化を図る。 (イ) ふれあい 活動の 実践 共生共育の実 現に向けたコ ミュニティ ースクールの実 施	・ニーズに応じたケース会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じた保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90%	・99% 主訴や課題を明確にした上で内外関係諸会議を開催	A	・支援区分表入力と校内支援検討委員会、特別支援学校等連携協議会の開催タイミングをリンクさせたことで、タイムリーな情報共有ができた。カウンセラーの活用と必要に応じた情報の共有及び連携ができた。
		・校内の専門家（看護師、SC）や校外の専門家（PT、OT、学校医、医ケア指導医相談員等）の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90%	・97% 校内、校外の専門家活用の計画的な実施		・事前資料を作成について、作成手順や方法について検討する。
		・「学校公開やHP等で学校の様子が理解でき」と答える保護者 100%	・98% 学校 HP やCOCOO メール等を活用した情報発信		・HP の作成スケジュールを組み、分掌内でも確認しながら計画的に発信することができた。
		・「ふれあい活動を実施し、地域資源（人・もの・こと）を利用できた」と答える教職員 100% ・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員 100%	・95% 年間指導計画に基づいて各学部 1 回以上の計画・実施 ・88% 居住地域での作品展、銀行等での作品展開催		・ふれ活掲示板（校長室前）や学校HPを活用し、活動の様子を外部や教職員に発信・周知をすることができた。
		・実施後アンケートで「有効であった」と答える本校、相手校の評価 100%	・93% 交流籍を活用した交流及び共同学習参加児童生徒（小中） 84 人 交流籍校数は 35 校		・実施児童生徒全員が事前打合せを実施し、相互の児童生徒の目標達成ができる事前打合せや計画ができた。